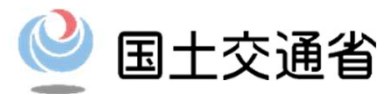


都市空間情報デジタル基盤構築支援事業 説明会

令和 7 年度採択都市 事例発表（2月）

京都府舞鶴市
建設部都市計画課





PLATEAU
by MLIT

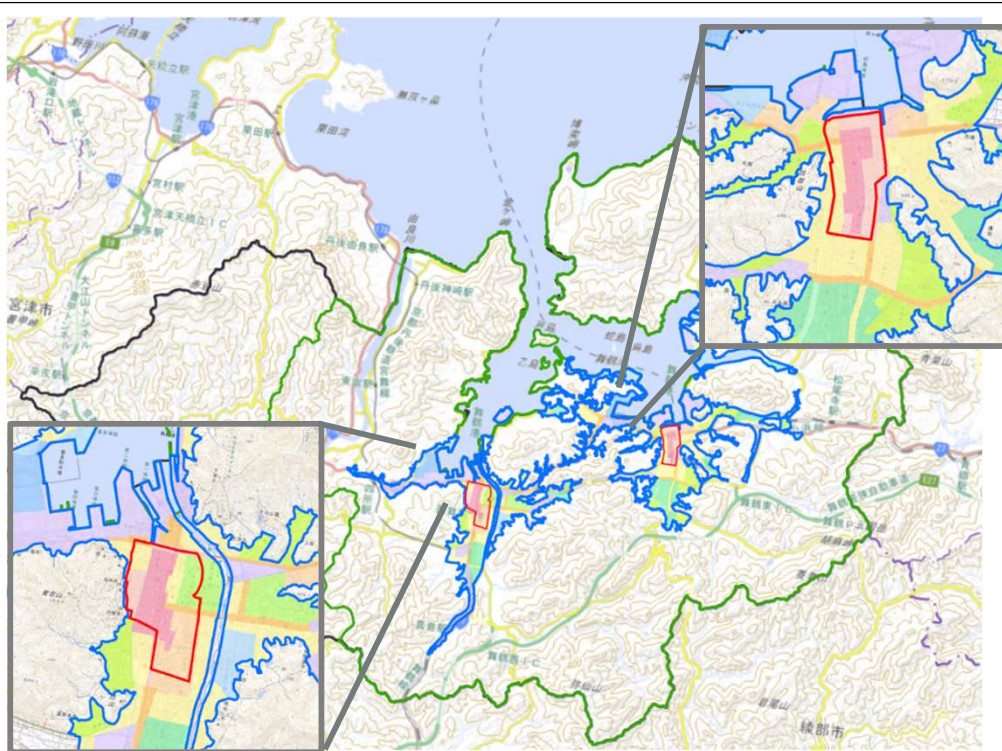
I. 3D都市モデルの整備



整備している3D都市モデルの概要

整備対象地物

地物名		整備状況	範囲
建築物	LOD1	R7新規	市街化区域
	LOD2	R7新規	居住誘導区域
道路	LOD1	R7新規	市街化区域
	LOD2	R7新規	居住誘導区域
都市計画 決定情報	LOD1	R7新規	市街化区域
	LOD2		
土地利用	LOD1	R7新規	市街化区域
	LOD2		
災害リスク	LOD1	R7新規	舞鶴都市計画区域
	LOD2		
地形	LOD1	R7新規	舞鶴都市計画区域
	LOD2		

整備エリア図



	LOD1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	市街化区域 (20km ²)
	LOD2 (建築物、道路)	居住誘導区域 (1.5km ²)



PLATEAU
by MLIT

Ⅱ. 3D都市モデルの活用一覧 (UC)

今年度含む過去のUC

R7年度実施事業		事業費(配分ベース) 【千円】	実施主体
年度	ユースケース事業名		
R7	災害リスクの可視化事業	5,000	舞鶴市
R7	まちなかの課題把握	1,000	
R7 補正	都市計画マスタープラン改定におけるストーリーテリング型プロモーション	10,000	
R7 補正	東地区エリアビジョン策定	6,000	



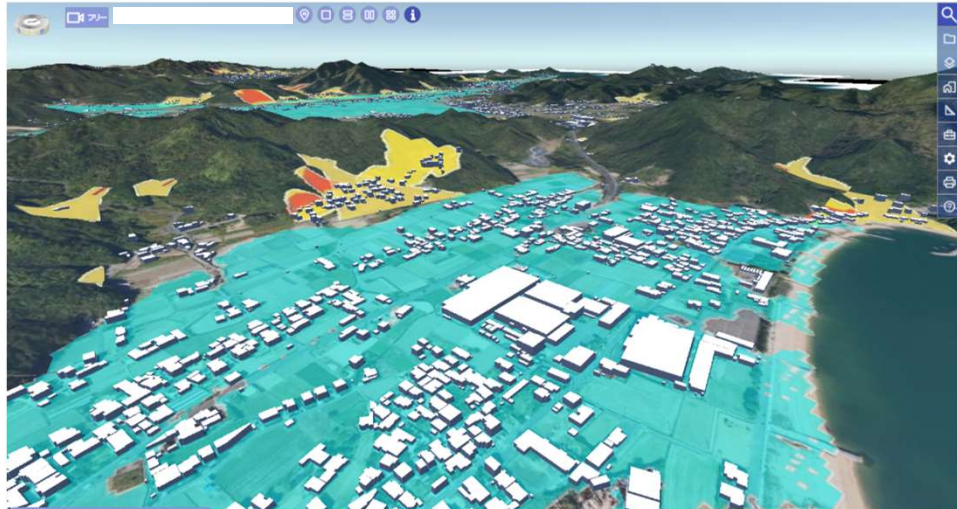
PLATEAU
by MLIT

Ⅲ. R7年度の3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

ユースケース名：災害リスクの可視化事業

<p>目的</p>	<p>災害リスク理解の向上</p>
<p>活用内容</p>	<p>市内全域での災害リスク情報の3次元表示を行い、市が抱える災害リスクをわかりやすく可視化する。</p> <p>さらに、3D都市モデル（建築物）に固定資産管理番号、被害想定状況などを重畳化することで災害時における被災可能性住家を可視化し、被害認定の効果的な対応（実際に被災した住家の被害認定までの時間短縮）を効率的に行えるか検討を実施する。</p>

■ ユースケース開発成果イメージ図



- 3D都市モデル（建築物）に固定資産管理番号、浸水状況などの情報を重畳化し、水害時における被災可能性住家を可視化（固定資産管理番号は庁内利用に限定）

KPIの項目	指標・定義	目標値
<p>災害リスク理解の向上</p>	<p>職員の災害リスク理解度アンケートで、理解度が上がった職員の割合</p>	<p>75%</p>

■ 事業実施にあたり工夫した点

- 被災調査担当へのヒアリングにより必要な情報などを精査。
- 個人情報など、内部利用に限る属性情報の管理。
- 3D GISの操作性



PLATEAU
by MLIT

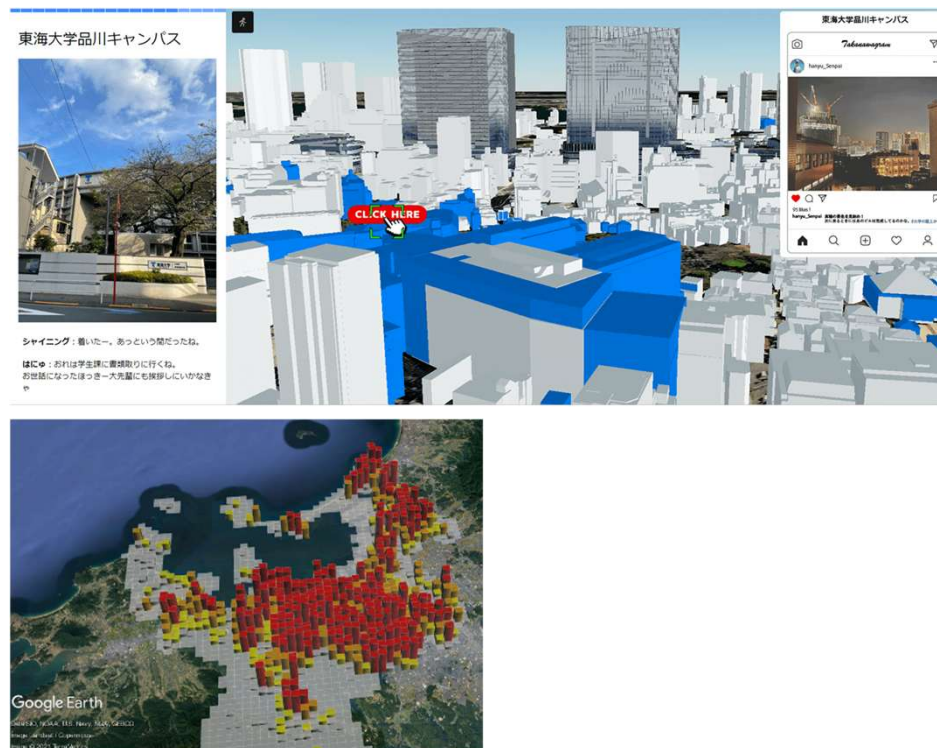
IV. R8年度の3D都市モデルの活用想定（ユースケース開発）

ユースケース名：都市計画マスタープラン改定におけるストーリーテリング型プロモーション

ユースケース名称	都市計画マスタープラン改定におけるストーリーテリング型プロモーション
カテゴリ	都市計画・まちづくり
創造したい価値／解決したい課題	舞鶴市が抱える都市構造上の課題、目指す都市像を3D都市モデル上で表現し、職員・市民とまちづくりの目標を共有する。
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 統計データ等と重ね合わせ、現在の都市構造を可視化。 目指す都市像を可視化 計画内容を3D都市モデル上でストーリーテリングの手法を用い展開し、職員・市民に対しプロモーションする。

KPIの項目	指標・定義	目標値
都市計画MPの理解度向上	紙媒体と比較し、プロモーション動画視聴による舞鶴市が目指すまちづくりの理解度の向上率	75%

■ ユースケース開発成果イメージ図

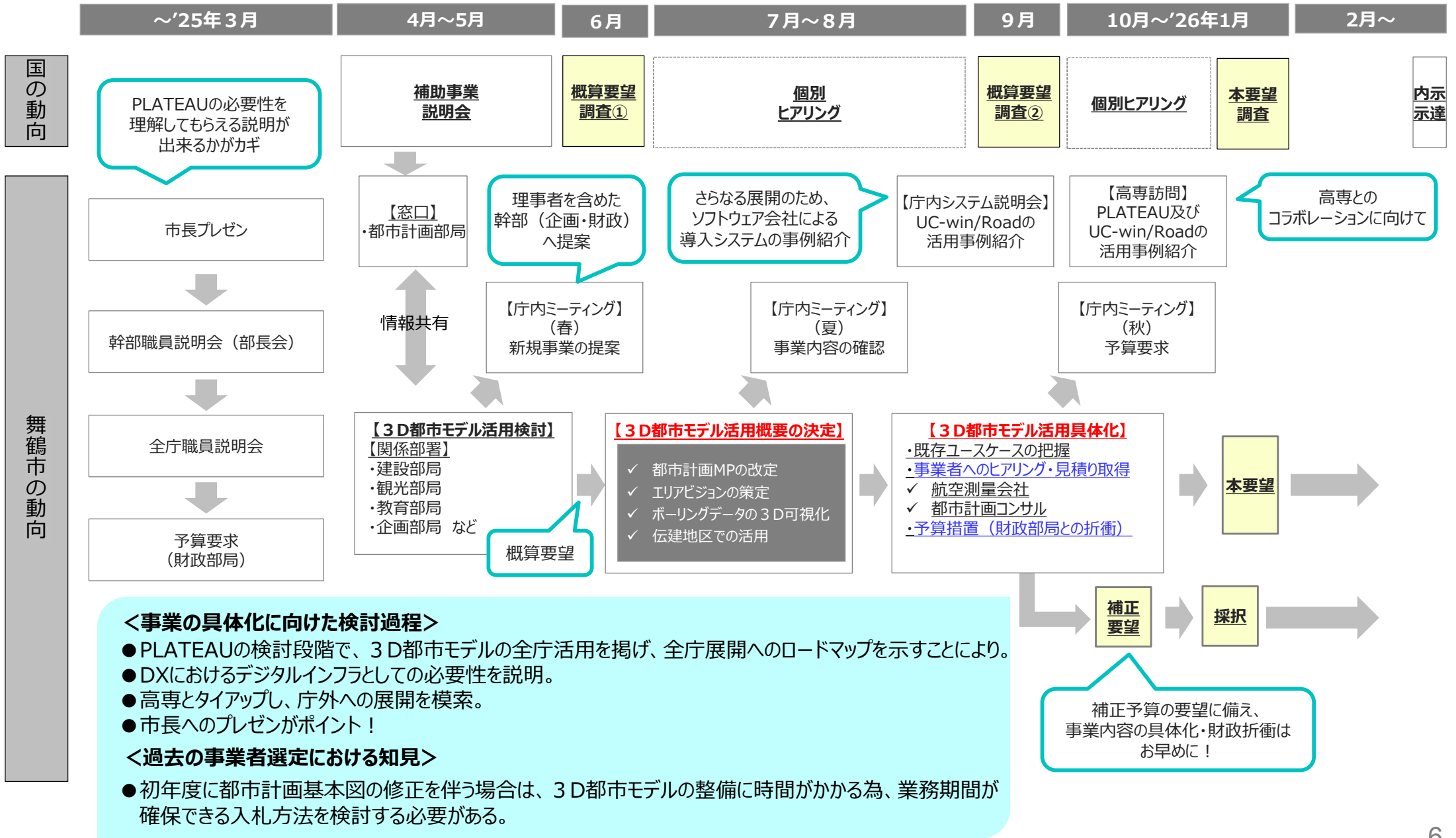


- 3D都市モデル上に都市構造、目指す都市像を可視化
- 現状から課題、目指す都市像を3D都市モデル上で物語調に展開し、プロモーション動画にまとめる。



PLATEAU
by MLIT

VI. R8年度事業化に向けた検討・調整経過について





PLATEAU
by MLIT

VI. R8年度事業化に向けた検討・調整経過について

PLATEAUの導入目的

Evidence Based Policy Making

根拠に基づく政策立案

“Episode Base”



“主観的イメージ”

個人の経験等に基づくイメージではなく、様々なデータから課題抽出・事業効果を分析し、政策を決定。

“Evidence Base”



“客観的根拠”



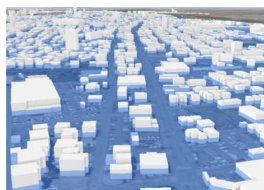
Accountability

説明責任

2D



3D



表現できる情報量がアップ

人は正しい情報があれば正しい判断・行動を行うわけでない。分かりやすい情報提供の工夫が必要となる

PLATEAUの活用ステップ

